



高山

高山右近もびっくり!

奮闘記23

棚田特集

＜第三種農産物産出＞

平成23年(2011年)9月4日 日曜日

産 経 報 国



棚田の景観保存を目指す「農のふるさと協力隊」メンバー

棚田景観保全に一役

豊能の団塊世代

豊能町高山の棚田(休耕地)で、団塊世代の町民たちでつくる「農のふるさと協力隊」が景観保全の作業に汗を流している。将来は棚田を舞台にイベントを開催し町を元気にするが夢、という。

休耕地で草刈り、整地 栽培

協力隊ができたのは昨年春。同町には163社の農耕地があるが、人口減と高齢化に伴い13社が休耕地になっている。そこで町農林商工課が光風台、とさわ台などの住宅地にすむ団塊世代に農地・里山の再生と景観保全に協力を呼びかけたところ、40歳代、70歳の男女17人が集まった。豊能町高山は戦国時代のキリシタン大名、高山右近生誕の地とされる。隊員たちは右近ゆかりの棚田(約3600平方メートル)で町や地元農家の指導を受けながら草刈り、整地、耕作を懸命にこなし、無農薬でアロココリー、キャベツ、エタマメ、ソバなどを栽培。メンバーも25人に増え第

北 撮

活動の様子を伝える「奮闘記」



ニュースは 社会部大坂総局 TEL:06(6633)9734 FAX:06(6633)9738

奮闘記が…人の目を止めさせられるか? なかなか難しい。保全活動に「ひまわり」が後押し、22回にして通じ伝わった。今回の新聞掲載。キリシタン大名・高山右近も驚いた! かもしれない。高山に多くの人に来てもらいたい。元気な豊能町・高山をアピールしたいという…思いがある。



かわいいゲストが 棚田で歓声!

町立ふたば幼稚園・保育所の園児(20名)が太陽の花「ひまわり」と競い合う。「たけくらべ、ヒマワリとにらめっこ、棚田を元気に駆け回る」…。久しぶりに…いや初めて棚田にかわいい歓声が沸く。舞台は一点の曇りもない。棚田とヒマワリ、園児はよく似合う。ヒマワリも最後の夏を楽しむかのように優しく園児を包んでくれた。十分に遊んだ後は、サツマイモほりに挑戦、大小のイモを手に満足な笑顔、「やったね!」と言う満足感が印象的。

農のふるさと協力隊(隊長)から、また来て下さいね…。園児たちはいっぱい笑顔とお礼を棚田に残してくれました。

「ヒマワリ」を高山の夏の風物詩として発信できる…確かな手ごたえを得た。

産 経 報 国

豊能町高山のヒマワリ畑で8日、町立ふたば幼稚園・保育所の園児たちがヒマワリとにらめっこをし、イモ掘りを楽しんだりして秋晴れの日を楽しんだ。

休耕地になつてしまつた高山の棚田で景観保全活動をしている「農のふるさと協力隊」向井邦男隊長が招いた。棚田では、ヒマワリが満開で、子供たちは畑の中を駆け回り、「こぼれ粟の背が高いかな」「ヒマワリより高いかな」

豊能 高山の棚田

「ほくの顔より大きな花は」と天はしんやき川原真

隣のサツマイモ畑ではイモ掘りに挑戦し、次々に大きなイモを掘り出した。協力隊のメンバーから、ヒマワリの花とサツマイモおみせにもらい、満足顔だった。協力は11月まで、長さが80センチほどになる。なごの伝野菜(三高山ゴボウ)の畑で、高山ゴボウ月夜大釜を開き予定

平成23年(2011年)9月9日 金曜日

サンケイ新聞(朝刊)9/9

農のふるさと協力隊は「見上げる空に垣根なし」。町内外、誰でも活動に参加できます。今回の新聞効果もあり、他市からの問い合わせあり。